

人間工学を「系・分野・分科・細目表」に要望する場合、分野、分科、細目、キーワードの区分うち、どれが相応しいと思いますか？ その理由もお書き下さい。

区分	理由
分野	<p>学際的な研究であり、これまでの「分野」では区分できないから。 日常生活から労働まで、人間の生活全般に人間工学はかんれんし、健康で快適な生活の実現には欠かせないものだから。 人間工学内で分科や細目選択をしてきたので。 扱う範囲が広いから。 近年のヒューマンファクターに関するニーズの高まりを考慮すると、分野として独立している方が望ましいと思われる。 人間工学会を見ればわかるが、それぞれの専門知識が多岐にわたり、審査を一つのカテゴリーでできるとは思えない。 また、既存の複数の分野にまたがるものである。既存のどの分野に包括されるか、意見が分かれる可能性がある。 人間工学は様々な分野が集まった領域と考えられるため。 人間は多くの技術分野で関わってくるので、上のレベルで分類しておかないと位置づけするのが幅が広い。捉え方としては、文科でも良い場合もあるが、開発などでは、分野とした方が、説明しやすい。 学際的な内容で、分野として区分したほうがよい。 人間工学は重要な分野なので。 人間工学は今後さらに重要になると考えられますので分野が妥当だと思いました。 学際的領域だから。 学際分野であるため、どこかに分類される形であると、結局採用の際の判断基準が他分野のものを適用され、不利になることを懸念するため。 例えば流体力学などと同様に一つの技術としてとらえているため。 多岐にわたる分野なので、どれかの下には入れにくい。 人間工学は背景に多分野が存在するので、いろいろなものを網羅できるように。 工学と付くからには、工学系であり、人間工学の下にはさらに細分化しなければならないほど沢山の分科、細目があると考えられるため。 様々な分野で当てはまってしまう人間工学だが、今後学問としてより確立していくなら、期待も込めて分野の区分が相応しいと思う。 人間工学が、ハードウェア系とソフトウェア系、建築・設備系にわたるため。 さまざまな知識が必要な横断的分野であるため。 複合領域として定義すべきと考える為、何かの下位に属するものではない。</p>
分科	<p>人間工学の対象になる範囲は広い。どれかの分科の下に入れると不自然なものが出てくると思われるため。 細目だけだと、細かく過ぎて包括できないと思われる。 多くの分野に所属する研究者の応募が期待できるため、総合領域分野に分科として人間工学を新しく設置するのが適当である。 「人間工学」という分科の下に、各人間工学領域が細目として用意されていれば理想(現実的には不可能だと思いますが…)。さらに一段下げて、細目に人間工学をおき、キーワードとして、様々な〇〇人間工学などがあれば人間工学の応募件数も選択・集中されるのでよいと思いきい分野では広すぎるし、細目では狭すぎる 学際的な複合領域であり、既に分科にある生活科学、人間医工学とも重なる部分がそれらとは異なる細目があるため。 人間工学は他の機械工学や電子工学と同じ広さを持ち、多くの細目が存在するため 人間工学の成果は多領域にまたがる研究手法によって支えられている。その下に細目やキーワードが位置づけられて然るべきと考える。 人間工学は領域が広いので、細目では無理。分科が妥当 人間工学が様々な領域を複合した領域であることから、分野は「複合新領域」内に収まるのが適切であり、分科から人間工学独特の領域を細目として細かく分類することが望ましいと思う。 キーワードでは大雑把となる。 融合領域であり、細目にしづらいため 人間工学に関する領域は他の研究領域より幅広い。総合領域分野内の1分科とし、更に研究内容に沿った細目を設置することが望ましいと思われるため 人間工学は様々な分野に入っているが、人間を中心にシステムを設計するという観点から、その基本的な方法論、特に人間特性にかかわる研究テーマが応募できるように、分科項目とするのがよいと思われる。 分野にするには大きすぎると思います。</p>

多岐にわたる分野のベースであるべきものと思うので。
 領域が多岐にわたっており、該当研究者も多いはず
 人間工学は応用範囲が広く、関係する領域が多岐にわたるので、「工学」の中の分化が最も相応しいと感じられる。また、「?工学」と呼ばれる分化が多いので、「人間工学」も違和感なく入れられると考えられる。
 ユーザー中心設計を分野と捉え、それを構成する分科と考えた。
 残念なことに、分野として取り扱われるほど認識が世の中にはないと思われます。細目ではVisibilityが低すぎると思うので分科が適切かと思いました。
 分野だと広すぎるし、細目だと小さすぎる。分科が妥当
 「わからない」が回答です。他分野が融合しているので、どこがいいのか判断がつきません。
 分野もしくは分科。人間工学の対象とするフィールドが広いので「分科」でよいのでは？
 その「細目」として広いフィールドの項目が表示されると分かりやすい。
 人間工学は1つの学問領域だから。
 分科がよいと思う。
 人間工学はひとつの科として体系立っている。人間工学の中にも様々な領域があり、細目には下位概念すぎる。
 人間工学は、工学・心理学・生理学・情報工学などの「総合領域」または「複合領域」であるので、これらの分野に属して、文化とすべきと思います。
 カバーしている分野の広い学問なので、設定が細かくなりすぎず、かつ限定的にならない項目設定という意味で、分科がだとうと思う。
 研究者数からみて。
 機械を対象とする機械工学、材料を対象とする材料工学等と同様の考え。
 分野が大変瀧にわたるので、理系・文系に分かれている今の分野では細目等に入りにくい。是非、総合領域の中に分科として人間工学があれば、応募しやすい。
 学振では、「分科」は1つの学術領域に対応するように位置づけているように見えます。人間工学は、1つの学術領域だと私は理解しているので、分科に位置づけられることが(理想としては)望ましいと考えます。

細目

工学や経営工学の細目として位置付けるのが適当。
 分科か細目であろうと考えられるが、人間工学会の規模からいって、細目では始めるのがよい気がします。
 分野・分科・細目表の中のどこに「人間工学」があるのかわかりやすくする必要はある。現状では複数のキーワードに類似内容があり選択にあたって混乱する。
 妥当だから。
 細目としてあれば応募できるから。
 分野や分科を横断するような概念であるため。キーワードの方がよいかもしれない。
 細目に割り当てられている他の分野の広さを鑑みると、人間工学は細目に相当すると判断されるため。ただし、例外的にそれほど大きくない分野が分科や分野に割り当てられている場合もあるため、これが100%正しい判断だとは思えない。
 細目に割り当てられている他の分野の広さを鑑みると、人間工学は細目に相当すると判断されるため。ただし、例外的にそれほど大きくない分野が分科や分野に割り当てられている場合もあるため、これが100%正しい判断だとは思えない。
 人間工学領域内に多くの研究課題があるが、分科としては領域が限られているため。
 分科であればなおよいが、難しいかもしれないと考えました。分科＝細目で、人間工学というもありうるとおもいます。将来は細目は更に分かれるとして。
 人間工学は学際的領域であるので、複数の分野で応募できる機会を提供するため。
 学術的範囲として適当であると考えるので。
 同じ人間工学でも分野が様々で、細目より上のレベルだと雑多になる。
 分野、分科では領域として大きすぎるような気がする。衛生学などに並ぶような項目が適当と考えられる。

キーワード

細目に人間工学を挙げると、応募が殺到し、適切なピア・レビューがおこなわれなくなる可能性があるため。
 人間工学は幅広いので、細目になるとその分野以外の研究者は応募しにくい。工学者が医学の衛生学の人間工学には出しにくい。そこで各分野に医学、生物(人類学)、工学、家政学、心理学・・・等々に人間工学を作る方がいいのではないかと思う。
 人間工学は応用分野の学問であるから、必然的に他の分野に付随するものとする。
 研究が複合分野の場合、対応する細目が分かりづらい。
 分野、分科、細目では新規ジャンルの研究や視点を塞ぐ危険があるから。